

誤嚥性窒息死のない世の中へ！命の危険が潜む夜間労働者(個人・団体)に愛と光を!!

～安全・安心・健康塾～

連載

120 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長
橋本 満義 (68歳・内科)



高齢化社会、独居老人の本音 〈虚と実〉

一生自宅で気ままな生活を続けたいが
体力的にも困難となり、
不安症状、幻覚、妄想も相まって
自縄自縛的になってしまう。

T.Kさん(87歳、男性)は、約6年前から当院
がかかりつけ医となった患者さんです。独居
生活で、自由気ままな人生を歩んできたよう
です。しかし、80歳代になって、アルコール依
存症、認知症、白内障、メニエール症候群、栄
養失調症、廃用症候群などの病状が顕著に

なりました。

日頃から食事のバランスが悪く、心肺機
能低下症状も出ています。点滴静脈注射に
よる栄養補給や在宅酸素療法(HOT)の使
用で一時的に体力の回復をみましたが、認
知力低下による問題行動(暴言、妄想、作り
話、介護拒否など)が現れました。T.Kさん
に対して、医療・介護を中心にケアマネ
ジャーや後見人、ボランティアや行政等と
連携して“チームサポート体制”の構築をし
なければ、在宅療養を継続することが困難
となったのです。

今回のT.Kさんのケースでは、幸運なことに
速やかに問題解決ができました。しかし近い
将来、2025年問題(団塊の世代が75歳になり
患者さんが多くなるなどの社会現象)といっ
たものが大きく立ちはだかっているのです。

被害妄想、^{きしねんりよ}希死念慮、医療・介護拒否
傾向の患者さんへの在宅医療継続解
決策には、かかりつけ医(内科)と認知
症専門医(精神科)、そして後見人の代
理であるしっかりとしたケアマネジャー
との連携が最も大事なことなのです。

〈ボランティア活動〉

人の命は、呼吸停止、心停止後5分間で死に至ります。(5分間ルール)
現場の人達を救命救急士として教育する
「安全・安心・健康塾」出張講義に、期待が集まります。



外来診療(かかりつけ医) 総合内科・漢方診療科

お医者さんが 24時間・365日体制で対応
来てくれる (松山市全域)

私たちは、質の高い
在宅医療・看護・介護を
目指しています。



医師数 19名
内科・外科専門医 16名
(国立がんセンター勤務歴有3名)
精神科専門医 1名
麻酔科専門医 2名
(ペインクリニック科)
末期がん治療(緩和ケア)
相談室開設!



H.27 大阪医科大学(研修医・医学生)在宅医療研修・研究協力機関
H.29 関西医科大学との在宅医療研修・研究協力機関

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所
(医)東西会 千舟町クリニック
松山市千舟町6-4-9
Tel:089-933-3788
http://www.touzaikai.jp/